

■東京都立産業技術研究センター 第4期中期計画(案)に対する評価委員会(分科会)の意見と回答

資料1-2

項目名	本文該当ページ	委員名(敬称略)	意見	回答
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	-		-	-
1 中小企業の技術的課題の解決や事業化を見据えた総合的支援	6~8	青山	ポストコロナの社会状況を見据えて、オンライン環境を充実し、Webミーティングシステムを活用した技術相談を充実していくことが必要である。 また、中小企業側における、オンライン環境の充実やWebミーティングシステムの充実に関する、サポートが必要と思われる。	Web会議システムによる技術相談の開始など、随時、支援におけるオンライン環境の充実を図って参ります。 (東京都回答)今後新たな取組を構築する際の参考にさせていただきます。
		大橋	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い数値目標について上方修正する可能性があることに触れる必要はないか。	依頼試験および機器利用の目標値につきましては、2020年度前半の特異的な状況を除いて予測を立てており、ウィズコロナ・ポストコロナを鑑みてある程度長期的な視点で設定しております。一方で、デジタル化関連の目標値については急激に対応が進んだ2020年度の実績をベースとしており、高水準の設定であると考えております。研究事業等の目標値については実績見合いとし、第三期の目標値と比較して高い目標値を設定しております。 ただ、ご意見を踏まえ、数値目標については今後の社会情勢を踏まえ、修正する可能性がある旨の記載を追加します。
		波多野	オーダーメイド型支援など新しい取組については、中期計画の早期にその取組を浸透させるよう、効果的な広報などの取組を行っていくべき。	オーダーメイド型技術支援をはじめとする新たな取組が早期かつ十分に中小企業が活用していけるよう、様々な媒体を活用して広報を展開し、利用促進を図って参ります。
		林	アフターコロナの時代に合わせて産技研を利用する際の利便性をさらに高めていくべき。	Web会議システムによる技術相談やセミナーのオンライン化など、適切にデジタル化を組み合わせた支援を実施することでアフターコロナの時代に柔軟に対応して参ります。
		藤竿	支援状況のカルテ化、オーダーメイド型技術支援の一本化は開発の効率化が期待できる。オンライン相談は相談側である中小企業のIT環境整備の遅れやWeb会議に慣れていないことが想定できるため、産技研側が会議ノウハウを積み上げ、円滑に進行してほしい。	中小企業に対して、円滑な支援ができるよう日頃の会議のオンラインの取組も実施しつつ、習熟して参ります。
2 産業の発展と都民生活の向上を目指したプロジェクト型支援	8	青山	高齢化社会における健康医療産業を支える、バイオ基盤技術の利活用が重要であるが、この技術分野は、大企業中心となることが多いため、中小企業の活躍の場を広げるための工夫・取り組みが必要である。	本部に設けたヘルスケア産業支援室を中心として、中小企業向けの研究会を開催するなどヘルスケア産業における中小企業への支援を進めて参ります。
		波多野	・DX推進センターを設置し、5Gなどの支援を実施していくところ、5年間でどのような支援を実施していくのかを示した方がよいのではないか。 ・どこまで支援する道標があった方がよいと考えられるので、定量的な指標を設定したほうがよいのではないか。	DX推進センターにおける支援についてはプロジェクト事業として時限的なもので、複数年の支援規模を明示できないものとなっております。 ただ、ご意見のとおり、産技研内部では、事業計画で目標を設定し管理していく形で進めて参ります。
		林	各支所・各部署の組織を横断的にまとめワンストップサービスが出来るような進め方をしていたきたい。	プロジェクト型支援だけでなく、産技研全体として、オーダーメイド型技術支援の枠組みを活用するなど組織横断的なワンストップサービスを行えるよう取り組んで参ります。
		藤竿	・非接触型技術のニーズは今後、一段と高まると思われる。成果を横展開するべく、効果的な広報などの取組を行っていくべき。 ・プロジェクト型支援は開発テーマが多岐にわたり、成果も多種多様と考えられる。定量的な目標と合わせて、産業貢献度等の定性的な指標も設定してほしい。	得られた成果については、普及促進のため様々なメディアを活用し、効果的な広報に努めて参ります。 プロジェクト型支援についてはプロジェクト事業として時限的なもので、複数年の支援規模を明示できないものとなっております。 ただ、ご意見のとおり、産技研内部では、事業計画で目標を設定し管理していく形で進めて参ります。
3 中小企業等の新事業展開支援	9	青山	DX推進のひとつの効果として、アカデミアと中小企業、異業種間の情報共有を促進し、オープンイノベーション促進の環境づくりが望まれる。	東京イノベーション発信交流会のオンライン化など、オープンイノベーションを一層促進させる取組を進めて参ります。
		大橋	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い数値目標について上方修正する可能性があることに触れる必要はないか。	海外展開の促進に関する目標値については、2020年度の実績を参考に、コロナ後においてもおおよそ近い数値で推移するものと予測し設定しております。 ただ、ご意見を踏まえ、数値目標については今後の社会情勢を踏まえ、修正する可能性がある旨の記載を追加します。
		波多野	時代に合ったイノベーションの推進をしていただきたい。	時宜にかなったイノベーションを創出できるよう、オープンイノベーションなどの取組を進めて参ります。
		林	中小企業振興公社等の組織とタイアップして資金と技術がセットになる施策を行って欲しい。	(東京都回答)今後新たな取組を構築する際の参考にさせていただきます。
		藤竿	オープンイノベーションやスタートアップ支援については、都産技研が大学との橋渡し役になる等、引き続き効果的な支援を進めてほしい。	今後新たな取組を構築する際の参考にさせていただきます。
4 地域や支所の特徴を活かした支援	10	青山	食品技術センターと産業技術研究センターの連携による新たな取り組みを期待する。	まずは組織の円滑な統合を進めて参ります。その後、双方の知見を活用した新たな取組についても検討して参ります。
		波多野	支援のターゲットをある程度定めることも重要である。	今後とも、地域特性を踏まえた支援を実施して参ります。
		林	産技研の特色をいかしたオンラインセミナー等を積極的に推進していただきたい。	技術支援分野におけるオンラインセミナーを積極的に実施して参ります。
		藤竿	食品技術センターの統合については連携・支援体制、支援の在り方等について十分検討し、産技研と食品技術の有する知見を効果的に活用していただきたい。	まずは組織の円滑な統合を進めて参ります。その後、効果的な支援体制のあり方や双方の知見を活用した新たな取組についても検討して参ります。

5 東京の産業を支える産業人材の育成	10~11	青山	オンラインによるセミナーのさらなる活用、Webミーティングシステムを活用した、相互のリアルタイムのセミナーと、オンデマンド型のセミナーの効果的な組み合わせが推奨される。	多様なオンラインセミナーの取組について検討し、実施して参ります。
		波多野	人材育成や人材の流動化は重要であるので、インターンシップやキャリア採用もご検討いただきたい。	ご指摘のとおり、人材育成の充実を組織を強固にする重要な取組であることから、インターンシップの受入を継続するとともに、キャリア採用についても引き続き継続して参ります。
6 情報発信の推進	11	青山	動画による発信の充実が望まれる。	今年度も成果発信等を行うための動画を積極的に作成しており、第四期においても一層動画をを用いた情報発信を進めて参ります。
		波多野	広報活動も含めて積極的な発信が必要である。	動画投稿サイトやSNSを活用するなど、戦略的な広報活動も含めた情報発信に努めて参ります。
		藤竿	SNSの活用については発言内容を事前にチェックする等、炎上対策を講じるべき。	どのような発言が炎上に繋がるか不透明ですので、適宜SNSによる発言については十分に注意しながら、適切な情報発信を図って参ります。
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	11~13	青山	オンライン環境の充実による、テレワークとオンサイト勤務の効率的な組み合わせについての検討が必要である。	テレワーク環境を充実させるとともに、テレワークとオンサイト勤務の最適なバランスについて適宜検討して参ります。
		大橋	経営方針の一つである変化に的確に対応できる機動的運営については、職員の確保・育成で記載があるが、さらに具体的に取組むべき計画はないか確認が必要ではないか。	人材の育成に関する具体的な取組については、別途計画を策定し取組を進めて参ります。
		波多野	デジタル化の加速、はんこレス、ペーパーレスを実施いただきたい。	システム等の整備やペーパーレス会議などを充実させることで、デジタル化を加速し、はんこレスやペーパーレスの取組を進めて参ります。
		林	コロナ禍での知見を踏まえ、DXへの革新的な運営を進めていただきたい。	システム等の整備やペーパーレス会議などを充実させることで、デジタル化を加速し、はんこレスやペーパーレスの取組を進めて参ります。
		藤竿	産技研の業務のデジタル化や柔軟な勤務形態の設定等と、中小企業に対する質の高い支援展開を両立してほしい。	システム等の整備やペーパーレス会議などを充実させることで、デジタル化を加速し、はんこレスやペーパーレスの取組を進めて参ります。 また、ライフ・ワーク・バランスに資する勤務形態の設定といった執務環境の向上を進め、中小企業に対して高い質を保った支援が行えるよう取組んで参ります。
第3 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 第4 短期借入金の限度額~第7 剰余金の使途	13~14	波多野	法人の経営努力の証左である、目的積立金の獲得に向け、効率化向上などに取り組むべき。	事業執行の効率化などを進めることで目的積立金が確保できるよう取組んで参ります。
		林	コロナ禍の知見を踏まえ、交通費等のコスト低減にも努めていただきたい。	テレワークやWeb会議の活用などにより削減できる箇所は削減して参ります。
第8 その他業務運営に関する事項	14~15	波多野	・事業全体の5年間の目標とそれに対する課題と取り組みと数値的な目標を示していただきたい。 ・環境エネルギー問題やSDGsについては、産技研全体の取組が個々の目標を意識したものとなるよう留意すべき。	・事業全体の目標が第4期中期目標であり、その達成にあたっては、事業化を見据えた支援、多様化する社会ニーズに対応した支援といった課題を見据え、第4期中期計画で掲げる取組及びそれを達成するための数値目標を設定しております(中期計画本文をご参照ください)。 ・環境エネルギー問題やSDGsといった社会的な課題に対しては、それぞれの目標(17の世界的目標など)を意識して各施策を進めて参ります。
		林	SDGsの活動をふまえ、2050年CO2実質ゼロに関する取り組みを進めていただきたい。	CO2実質ゼロについては、SDGsを意識した長期的な視点を持ちつつ、空調運転方法の改善やエネルギー管理システムを活用した使用量分析など排出削減を意識した取組を進めて参ります。
		藤竿	SDGsを意識するとともに、その取組を効果的に広報していただきたい。	SDGsについては、個別目標を意識した取組を進めるとともに、産技研としてどのような点についてSDGsを意識して取組んでいるかをわかりやすく都民に伝えて参ります。